

日本学術会議市民公開シンポジウム

農学の最前線 - 先端科学と応用技術 -

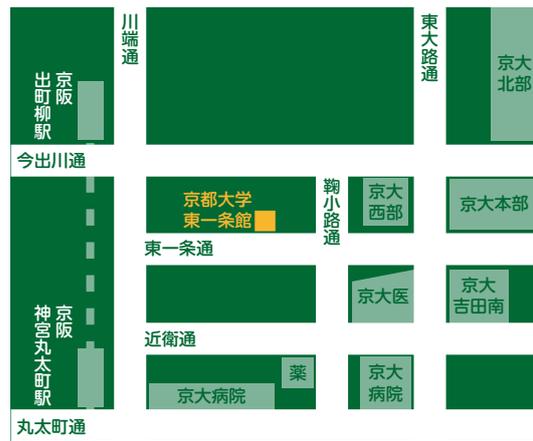
平成 28 年

8 月 6 日 (土)

13:30 ~ 17:30

京都大学東一条館思修館ホール
(東大路東一条西 200m北側)

参加費
無料



開会挨拶 梶 茂樹 (日本学術会議近畿地区会議・代表幹事)
講演

1. 先端科学でイネの収量はどこまで向上できるか？
大杉立 (東京大学農学生命科学研究科・特任教授)
2. ゲノム科学が農学にもたらすもの
- 植物ゲノムの研究と応用 -
倉田のり (農業・食品産業技術総合研究機構・理事)
3. ヒトと動物の感染症 - 人間社会への影響 -
甲斐知恵子 (東京大学医科学研究所・教授)
4. ゲノム情報の利用とその改変による
カイコの遺伝子機能解明と新たな昆虫産業への展開
嶋田透 (東京大学農学生命科学研究科・教授)
5. 未来の車は植物で作る
矢野浩之 (京都大学生存圏研究所・教授)
6. 植物の反応をみる - 細胞～地球環境 -
大政謙次 (日本学術会議・第2部副部長)

質疑応答

閉会挨拶

総合司会 川井秀一 (京都大学総合生存学館・学館長)

人間の生活の糧を担う学問である農学分野は、分子生物学やナノ材料・計測技術等の発展に伴い、人間の生存にとって不可欠な食料、生命、環境を対象とする総合科学として益々その重要度を増しています。本公開シンポジウムでは、農学分野の先端科学と応用技術について、最近の発展をわかりやすく解説し、その未来を展望します。講演では、市民生活と関連が深く、市民の関心が高い「TPP」の話題、遺伝子資源の利用と保存、感染症、遺伝子組み換え技術、セルロースナノファイバー等を取り上げます。

主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会

共催：京都大学大学院総合生存学館 (思修館)、日本学術会議近畿地区会議

後援：日本学術振興会学術システム研究センター農学専門調査班

問い合わせ先：京都大学大学院総合生存学館 TEL & FAX : 075-762-2013 URL : <http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp>